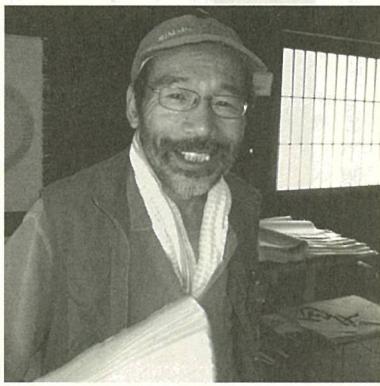


# 和紙だより



■中村功

1949年徳島県那賀郡生まれ。高校卒業後、林業に従事するが、当時、和紙の世界でも「途絶えた」とされていた「拝宮紙」(はいぎゅうし)という楮紙を復興すべく、紙漉きになることを決意。勉強のため全国行脚の後、1976年小学校の廃校で「拝宮手漉き和紙工房」を開設。全ての材料を地元四国でまかない、昔ながらの技法で、自然の香り豊かな創作和紙、インテリア和紙、和紙小物を制作している。

工房:徳島県那賀郡那賀町拝宮藤3

## —越前和紙への提言—

■中村功さん(紙漉き作家)  
「作らされているだけでなく、当事者から発信を」

### ●ふるさとの「廃絶した」拝宮紙

拝宮紙は、私が子どもの頃は「はいぎゅうがみ」と呼んでいて、江戸の末期から続いてきた紙です。昔は近隣近在の祭りの時や盆・暮れ・正月の障子紙の貼り替え時季に、峠を越えて売りに行っていたようです。障子の棟の寸法が、山ひとつ超えると違っていたので、遠くでは売れなかつたし、反対によそからあまり入つてこなかつたのです。「拝宮」というと何やら曰く所以がありそうな名で、言い伝えでは原料の赤楮は和歌山から伝わつたということです。しかし、村の人は自分たちの和紙の位置づけも余り知らず、私が紙漉きの勉強を始めた時、和紙の世界でさえ、研究書を読んでも「拝宮紙は廃絶した」とありました。当時まだ一、三軒は漉いていたのに。(笑)一時林業に就いたのですが、折からの石油ショックの影響でこここの林業も立ちゆかなくなりそうでした。おまけに集落も過疎化で消滅の危機に瀕し、母校の小学校も廃校になつてしましました。その時、ふとテレビで「どこの地方では紙漉きが盛んで、和紙がブームになつていて」というニュースを見たのです。うちの村では衰退の一途をたどっているのに、他の所ではこんなに活発なところがある。うん、これはいけるかも知れないと思つたのです。後にこの時見た和紙は小原和紙だということが分かりました。

●紙修行  
と言つても、紙漉きは全くの素人。何しろ情報

がないので、全国の和紙の产地、越前、小川、高知などを尋ね歩きました。产地では余り教えてもらえなかつた。というより、どんな紙が漉きたいか、当時はよく分かつていなかつたので教える方も困つたかもしません。最後は、山川の阿波和紙の伝産会館に入つて三ヶ月間教えてもらいました。七六年に廃校になつた小学校を工房にして始めました。若かつたし、拝宮紙を復興させたいと余りに根を詰めたので山を壊して、身体を壊した時期もありました。拝宮紙は、

豊中市の古民家ギャラリーで七月に作品展開催

は拝宮藍や柿渋などで染めます。漉き込む植物もこの土地にあります。すべてを周囲にあらわすものでまかなくていいです。一枚一枚丁寧に漉き上げるので、普通だつたら一日五〇〇枚漉くところを、うちは一七〇枚しか漉けません。



●すべて直接注文

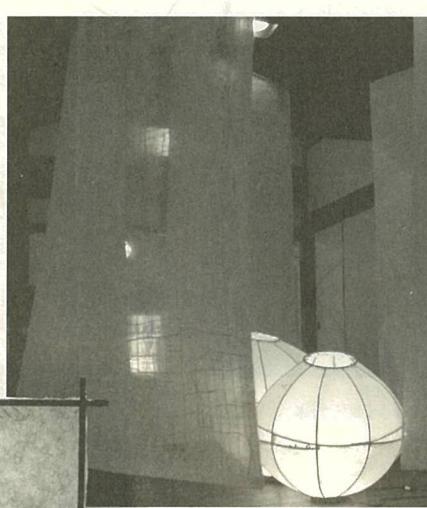
最初は街で展示会をするという発想もありませんでしたが、「拝宮紙」という名前をまず知つてもらわなくてはいけないので、とにかく全国の和紙の产地でないところを選んで回ろうと作戦を立てました。グリラ戦法です。どこへでも行きました。紙漉きが自ら発信しなければという信念があつたのです。作らされているだけではいけないと私は思っています。

織維が細くて、光沢があり、品質がいい赤楮(あかそ)を主に使っていました。高知にもある原料ですが、病虫害に弱く、成長が遅いので敬遠されていました。昔は栽培

現在、注文は殆どがクラフトショップなどからの直接注文です。こんな紙を作つてくれと言う注文もあります。ガラス作家や陶芸作家とのコラボでの展覧会も積極的に取り組んでいます。二〇〇五年には、サンフランシスコで個展もしました。海外の方々が純粹な目で見てくれるような気がしました。大きな产地と違い、問屋もないことで、自分で人脉や販売ルートを作らなければなりません。反対に古くからのしがらみがない

う発想も昔はなかつたようです。ネリはのりうつぎとトロロアオイを使います。色

は透明感や表面の質感に厳しいのですが、貴重な赤楮を障子に使うのはもつたいたいとい

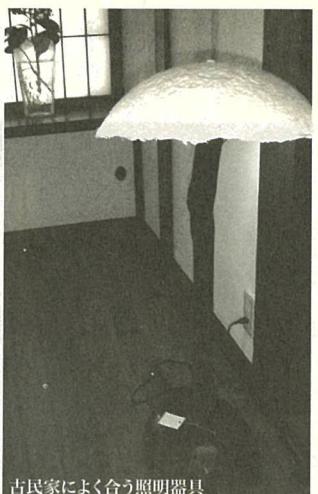


う発想も昔はなかつたようです。ネリはのりうつぎとトロロアオイを使います。色は透明感や表面の質感に厳しいのですが、貴重な赤楮を障子に使うのはもつたいたいとい

## ■阿波紙総体の場合

## 古民家によく合う照明器具

ので、好き勝手にできて、個人プレーも許され  
るし、足を引っ張るものもない。案外、唯我  
独尊というのが自分たちの紙を守る術だつた  
かもしません。自由にできた。振り返ると  
紙が私の人生をあるべきどこかへ運んでいつて  
くれたのかもしれません。



●阿波和紙の歴史



アワガミファクトリーを統括する  
代表理事の藤森洋一さん

URL: <http://www.awagami.or.jp/>

■阿波紙総体としてまとまりよく動く  
「阿波紙の場合」

●阿波和紙の歴史

阿波地方には、紙に関する深い布・糸・織物の文化が色濃く残っている。約千三百年前朝廷の祭祀を司る忌部族が現在の徳島県麻植郡山川町の地に入り、麻や楮を植えて紙や布の製造を広めたと、平安時代の神道資料「古語拾遺」（八〇七年）に記されている。忌部はシャーマンの一族であつたため、祈りや儀式に用いる聖なる布やお祓いの紙などの製造技術に詳しかつたとみえる。忌部の始祖天日鷦命（あめのひわしのみこと）は、紙祖神でもあり、「古語拾遺」によれば、一族は天皇即位後の大嘗祭には、木綿（ゆう・糸状のもの）・麻（お）・荒妙（あらたえ・織物）を献上した。材料は、カジノキ、楮、大麻などで古代の紙と同じ原料だ。

江戸時代には、阿波藩の藩札や奉書、画仙紙などの御用紙を始め、楮や雁皮を中心に入ると、パリ万博（一八八九年）やシカゴ万博（一八九三年）にも典具帖紙やタイプライター用紙を出品し好評を博す。明治の最盛期には漉き場も、吉野川流域に五百戸、川田川流域には二百戸を数えるが、昭和期、特に戦後は機械漉きに押され、昭和四三年には、現在の富士製紙企業組合二戸となつてしまつた。組合代表理事の藤森洋一さんにお話を伺う。

●アワガミファクトリー



伝産会館の入口の  
入り口

## ● エンドユーザーに近く

「ここは越前と違つて紙問屋さんがないのです。だから直接消費地へ出向かねばなりませんでした。九三年に、大阪心斎橋にアンテナショッ

「awagami+」シリーズ

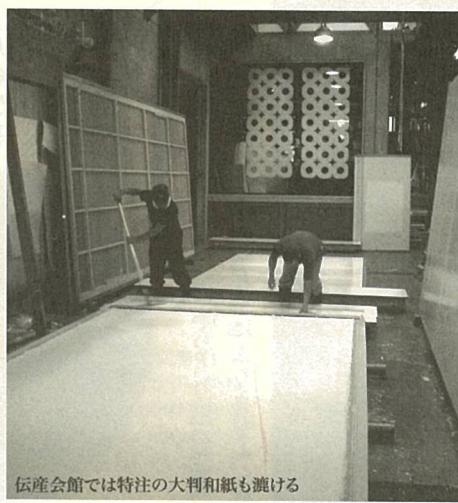
し始めた。一九〇七年、大阪のショッップをたたみ、若手スタッフ三人の常駐する東京企画室を設置。都市部のニーズを探りながら、待ちの姿勢ではない企画営業の拠点を目指す。インターネットを使ったネット販売、ウェブサイトやメールマガジンでの情報発信にも積極的だが、これは米国在住の長かつた理事の長女、静さんが主に担当している。海外向けは好調ということで、グローバルな市場に向け

ブを構えたのも、まず和紙を知つてもらい、ユーチューバーの声を聞くという理由からです」と藤森さんは振り返る。実際に紙を見せ、きちんと説明さえすれば、和紙はまだまだいけるぞ、という感触を持つたそうだ。デザイナーは、この頃から大阪のデザイン事務所に年間契約で依頼。二十年になる。最初はデザイナーが提案してくれたものをどのように売つていいのか分からず、試作品がお蔵入りになることもあつたが、次第に地道な営業活動で売れ始めた。大切なのは、思いつきで商品開発するのではなく、マーケティングなどをやって、こなれた売る商品になるまで開発時間をかけることだという。

ての戦略を模索中だ。

### ●ユニークな伝産会館

一般的に、和紙産地の伝統産業会館は、紙の製造工程、和紙製品の展示、紙漉き体験工房という構成が多いが、ここの大伝産会館はいきなり吹き抜けの大きな工房がガラス張りのエントランスから目に入って来る。ショッピングは



伝産会館では特注の大判和紙も渡ける

一般的に、和紙産地の伝統産業会館は、紙の製造工程、和紙製品の展示、紙漉き体験工房という構成が多いが、ここの大伝産会館はいきなり吹き抜けの大きな工房がガラス張りのエントランスから目に入って来る。ショッピングは

### 漉き場探訪

#### ■梅田和紙株式会社 「和紙は基本的に厳しい」



社長の  
梅田修二さん

創業は、大正十年。現社長の梅田修二さんの祖父、文助さんが親戚の人と共同で漉き場を開設したことに始まる。現在の漉き場は、父太士（ふとし）さんが昭和二十一年、母文子さんと結婚する少し前に、創業当時の共同経営体制から分派し独立した。妻の家業を継ぐことになつた太士さんは、紙漉きは門外漢にもかかわらず、生来の研究熱心な性格で紙の技術や歴史をよく調べ上げ、その知識は学者頗負けて、大学の講師も務めた。三代目の修二さんは、越前和紙のデザイン運動とも言うべき「和紙パーソンズ」の初期の頃からのメンバーだ。現在、従業員数十名、手漉きと機械漉きを手掛け、和紙の里通りには直営店「和紙の店・うめ田」がある。

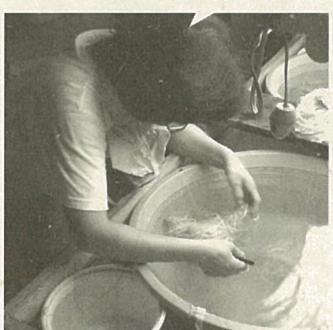
#### ●越前の業態の特徴

越前の紙は、素材として使われることが多かつたためにプロの間では有名ですが、美濃などに比べると一般人には、知名度が低いかもしれません。障子紙は自分で貼り替えていたので、買おう時には「美濃」と指定したかもしませんが、越前の襖紙などは、一回張ると二十年、三十年は張り替えない上に、張るのは経師屋さんというプロです。本当は日本一の産地ですから、段

ボールから古新聞から雑誌、昔の本、紙の修復など、紙のことなら何でも揃うという産地

だつたらしいのですが、残念ながら手漉きから発生している製造産地のためか、軒数は多いが規模が小さい。細かいことには対応出来るけれど、ちょっと規模が大きくなつたり、総合力が必要になつてくると対応出来なくなるという弱い部分があるかもしれません。一般の方が直接使う最終製品まで作らないといけないとは思いますが、加工業者も、例え「張り合わせ」をしますとか、「紙を揉みます」といった二人二人でやっている零細な加工屋さんが多い。そう

いう面を知っているから、「素材としての越前和紙は素晴らしいです」というPRの意味でパーソンズの活動も続けてきました。



細かなチリトリ作業

#### ●和紙屋は厳しいという認識

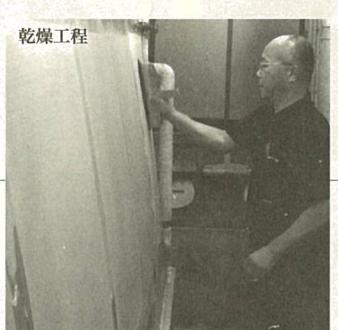
紙と言えば今では九九%、洋紙のことを言うようになります。和紙は現在、産業の分類から言うと「雑種紙」となつてます。今から新しく下駄屋や提灯屋や和傘屋を始めた。お見せしている見本帳に載つているようなものは、この产地ではうちしかないとあります。産地内の繋がりも多くありました。和紙というと楮が主流の中、うち雁皮紙、

が、欲しい人のために細々と作つてあるという感じになつていくのでしょうか。

例えば、この辺で「雁皮紙がありますよ」と大きい声で言えるのは、うちくらいのものですが、在庫品が出ない日が殆どです。需要は修復用や書道用などですが、原料の加工をしてくる方も高齢化が著しく、やめてしまいまして。それでも作ろうと思つたら、非常に高くつくし、こちらの方もそれに見合った値段ももらえません。先日来られた修復の方も、五、六十枚も買えば一生分あるなんて、おっしゃいますね。(苦笑)

#### ●「澄打紙」

昭和四十年代の始めに機械漉きも始め、工場も三カ所に増えましたが、本物の割合が小さくなつていく中で、父はこれぞ本物と言ういい紙を作りたかったようです。研究熱心だったし、いいものを漉いておいたらそのうち売れるだろうからと漉いていました。それで、いいものは梅田和紙に行けばあるという具合になつた。今



乾燥工程

紙は一枚一枚検品



三極、楮、本麻、パルプを使ったもの、何でも漉きます。

現在は主に「澄打紙」(「ずみうちがみ」)を漉いています。金箔の材料で1/1000ミリくらいの厚さの物を「澄」(「ずみ」)といいますが、金を伸ばす時の特殊な紙です。材料は「稈心」(「みご」といつて稈藁の外側の葉や葉鞘を除いた上部の茎の部分を使います。繊維が短いので楮を混ぜます。昔からこの材料でないといけないそうで、表面の光沢やのびが違うのだそうです。

金箔屋さんが、この材

料を調達までし

て依頼してき

ます。みごに

するまでに

は大変な手

間がかかるの

で、アジア産の

輸入物です。金

箔を打った後の箔打

紙は「ふるや」と呼ばれ、あぶらとり紙の最高級品で、一般の人には殆ど手に入りません。昔

から歌舞伎役者や芸能界の人たちが先約して優先的に買うものです。こつてりと塗った歌舞伎化粧の上からも化粧を落とすことなく脂が取れます。

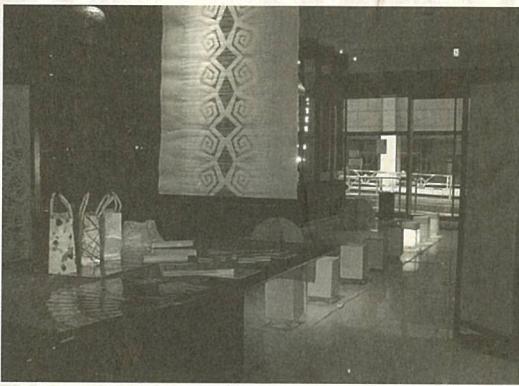
悲観的なことばかり申し上げたかもしませんが、こここの産地はそれぞれが小さいながら一国一城を構えていますが、それでは何ともならない時期に来ているのではないでしようか。产地の横の繋がりをもう一度見直し、みんなで知恵を出し協力していくという当たり前のことからしか始まらないのかもしれません。



## ■「産地問屋杉原商店が語る越前和紙の世界展・代官山で開催

東京でも落ち着いたオシャレな街、代官山の住宅街にある「OLD IMARI 代官山」で、六月六日～十八日、越前和紙の産地問屋が発信する展示会と交流講演が行われた。会場には、杉原商店がコーディネートした大きな創作和紙、照明器具、創作屏風、オブジェ、漆加工した装飾和紙、小物などが展示され、外国人やインテリア好きの山の手マダムに好評。会期中の六月十七日、十八日の夕刻には、杉原吉直氏による交流講演会が開かれ、ビデオを交えながら、和紙の製造過程、越前和紙の歴史や特長が紹介された。両日とも二、三十人の建築、インテリア関係の人やデザイナー、和紙ファンが訪れ、日本一の和紙産地の魅力的な紙の世界に興味津々の様子。最終日には、和紙関係者だけでなく、会場出入りしているクリエーターなども交え、福井のお酒とソバなどを楽しむ懇親パーティも行われ、産地の理解と都市の和紙ファンを増やす交流型の催しは、和やかな雰囲気のうちに幕を閉じた。

「OLD IMARI 代官山」の展示会場



## 情報欄

### ●イベント情報

#### ■丹南産業フェア 2008

時：9月13日(土)～15日(祝)

場所：サンドーム福井

紙漉き体験、和紙製品即売・展示あり

#### ■東京えちぜん物語

時：9月20日(土)～23日(祝)

場所：東京タワーホール

墨流し・紙漉き体験、和紙製品即売・展示あり

#### ■近畿工芸品フェア

時：10月17日(金)～19日(日)

場所：京都 西陣織会館

墨流し体験、和紙製品即売・展示あり

#### ■伝産月間記念式典他関連行事

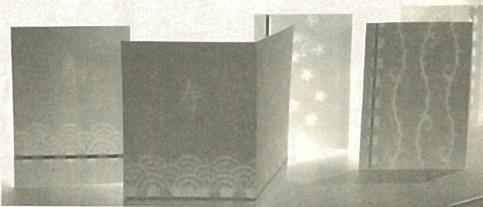
時：11月12日(水)～16日(日)

場所：岐阜 長良川国際会議場他

全国大会・工芸士大会開催。ふれあい広場にて、墨流しの実演と体験あり

## 素の紙展

●「素の紙展」2008 -- 和紙を暮らしのなかに --



「越前和紙をインテリアにつかう」をテーマに、和紙をインテリアに用いる方法や作品を紹介し、越前和紙の幅広い活用法を提案します。展示概要：壁紙への活用、LEDを漉き込んだインテリア照明、リボンを漉き込んだカード、和紙のタペストリーと時計などの雑貨類。

時：10月23日(木)～28日(火)10:30～19:00 水曜日休館

場所：東京新宿 リビングデザインセンター

OZONE 6F リビングデザインギャラリー

入場料無料 お問合せ：03-5322-6500

### 編集後記

阿波へ向かう車窓から、田園地帯に何が栽培されているのか観察する。列車の中では地元の人が、「ほうれん草栽培は儲かつたが、手間がかかりすぎてやめた」と話していた。夏真っ盛りでしたが、しばしの癒しになりました。(よ)